

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第45号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

最新の技術で鮮明な画像を 放射線部



IVRによる手術の様子。血管内の画像がモニターに映し出されている

阪大病院放射線部では現代の医療には欠かせない画像診断やカテーテル治療に必要なPET(陽電子断層法)、CT(コンピュータ断層撮影)、MRI(磁気共鳴画像)など世界最高機能の画像診断装置を導入し、素早く適切な診断、治療をサポートする体制を整え、高度先進医療の提供に大きく貢献しています。

適切な診断、治療を 素早くサポート

同部には最新で高性能な装置が設置されており、患者さんの体への負担を最小にして鮮明な画像を撮影したり治療を行ったりすることができ、安心、安全で質の高い医療が可能になっています。

外科をはじめ多くの診療科がPETを利用しています。CTでは見つけることの難しい小さながんの転移を見つめることができ、手術の範囲の決定や手術をす

るかどうかの判断に役立っています。また、術後の転移を調べたり、化学療法による効果を早期に判断できます。

現在、PETは2台あり1日に15人前後の患者さんの検査をしています。がんの正確な診断や確実な治療に不可欠なPETは組織における

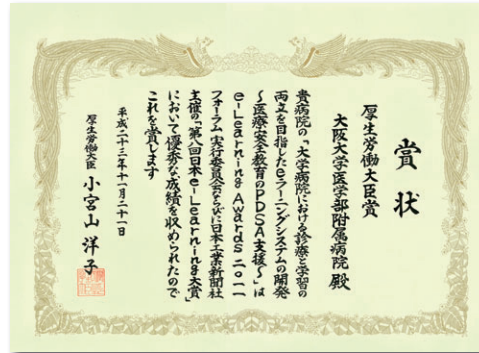
体外に優しいIVR治療として注目されているカテーテルを使った血管内治療も同部が中心になって行っています。インターベンショナルラジオロジー(IVR)と呼ばれるこの技術は、心筋梗塞の原因となる心臓の冠動脈の内側にできた血栓をカテーテルで削ったり、出産時の母体からの大量出血や大けがによる血管に詰り物をする

ことにより患者さんの負担を少なくして治療しています。また、生体肝移植後の血管異常の治療も行うなど阪大病院の高度な医療を支えています。

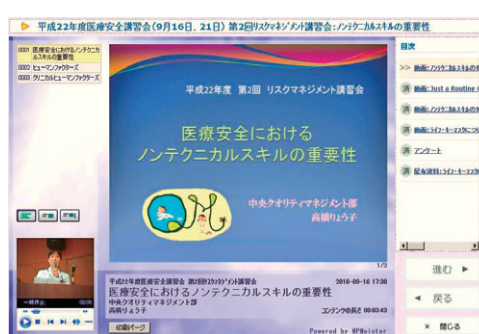
IVRには血管の走行や血流を見ることができアンギオ装置血管撮影装置が必要で、今回、新たに導入したアンギオ装置は、従来の装置では血管内を1方向からしか映せなかつたものを2方向から見る事が可能になり、カテーテルの位置を確実に把握でき、安全性が高まり、治療時間も短縮できました。また、造影剤も少なく済み、患者さんに負担の少ない治療になっていきます。IVRは今後ますます増加が見込まれるため、さらに同時2方向撮影ができるアンギオ装置を導入する予定にしています。

また、放射線に対する不安を持っておられる患者さんに対して、放射線部が担うアンギオ装置の操作

日本e-Learning大賞 厚生労働大臣賞 受賞



中央クオリティマネジメント部が 独自開発の医療安全学習システム



研修医の受け入れや毎年の新人看護師の配置、中途採用などが多く、講習会に約2000人の職員全員が参加することは難しい状況です。それを解決するために阪大病院では2006年12月から職員がいつでも各部署で医療安全に関する学習ができるようにeラーニングを導入しました。

子どもたちも困っています!



に2009年4月から文科省の特別経費により大学病院の診療や学習の状況をふまえた独自のシステム開発を始めました。年間約900人も異動するため困難だった利用者の管理は、電子カルテに登録されている職員情報をうまく利用するようになりました。全職員対象の医療安全に関する動画も配信されています。

る患者さんには丁寧な検査や治療のメリットを説明して理解していただいています。さら

に患者さんの安全を確保するために造影剤の量や放射線の照射量については医療における

放射線管理のプロである医学物理士が適正に管理しています。放射線の需要は増え続けている一方で、患者さんの待ち時間を減らすことにも努めなければなら

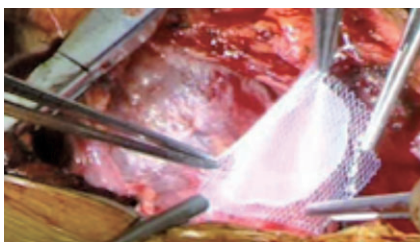
全講習会の動画も配信。また、各診療科や職種の専門家が、使い慣れたソフトであるパワーポイントで作成した教材をそのままeラーニングの教材として利用できます。さらに、院内の医療安全の課題をいち早く見つけることができるように、アンケート調査や分析も行

心臓病治療で日本のけん引役

心臓血管外科

阪大病院の心臓血管外科は常に先進的な治療を開発、実践するとともに、心臓病の最終受け入れ病院としてどのような症状の患者さんも断らずに引き受け、助ける努力をすることをモットーにしています。

同科は日本で初めて人工心臓による開心



細胞シートを機能の弱った心臓に張り付ける



経カテーテル大動脈弁留置術の模式図(左)と人工大動脈弁

市民公開フォーラムを開催しました — 頭頸部がん(のど・口・鼻) —

頭頸部のがんについてのフォーラムが昨年12月10日、116人が参加し開催されました。頭頸部のがんは部位別に見た場合、割合としては多くはないのですが、のど、口、鼻等いろいろな部位が含まれており治療法も異なるため、病気の判断が重要になります。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科長の猪原秀典教授が外科的見地からの話をされ、放射線治療科の吉岡靖生准教授からは現在行われている放射線治療法についての解説がありました。また、歯学部附属病院の山上千夏歯科衛生士からは、がん治療にも口腔ケアが欠かせないことの説明がありました。「あまり見聞きしない部位のがんでしたが、とても興味深く話を聞いた」と参加者に好評でした。

クリスマスコンサートに桑名正博さん



少し早いクリスマスコンサートが12月16日にエントランスホールで開催されました。岡澤方子さんのピアノ演奏「オーバーザレインボー」で幕開け、続いてメゾソプラノの寺西恵美さんは岡澤さんが東日本大震災を憂い作詞作曲された「いのちの絆」とクリスマスソングを歌ってくださいました。また、2部との間にセラピストの坂本真由美さんが、色によって気持ちがかわるという癒やしについてのお話をしてくださいました。そして最後に桑名正博さんがサプライズゲストとして出演、軽妙な会話で患者さんたちを笑わせながら、歌ってくださいました。最後は出演者と患者さんが一緒に「きよしこの夜」を合唱しました。



病院フォーラム 「病院と地域で支える『生きる力』」

保健医療福祉ネットワーク部主催としては節目となる第10回の病院フォーラムが昨年10月31日に開催されました。昨年は東日本大震災という未曾有の天災を通じて、生きることや絆の大切さを考え直す年でもありました。ネットワーク部の重要な業務である後方(退院)支援は地域との絆が非常に重要です。本フォーラムでは医療法人拓海会神経内科クリニックの藤田拓司先生をお招きし、患者・家族の「生きる力」を病院と地域がどのように支えていけばよいかをご講演いただきました。

また、訪問看護師、ケアマネジャー、さらには吹田市民病院の地域連携部部長に参加いただき、地域で退院後の患者さんを支える立場から提言をいただきました。院内外より職種を超えた約250人が参加され、医療従事者や市民の意識改革の重要性、さらに在宅医療に対する啓蒙・教育の重要性などを再認識される非常に有意義なフォーラムでした。

入退院センター 入退院玄関改修工事のおわびとお知らせ

●本院が平成5年に吹田キャンパスに移転してから18年が経過し、これまでも建物や設備の改修を順次行ってきましたが、長年の懸案であった入退院センターの改修を行っています。改修にあたっては患者さんやお見舞いの方々、各種業者の方々と教職員の皆さんの動線等を確保し、業務が停滞しないよう工夫しながら、可能な限り工期を短縮して行っておりますが、一時入退院玄関を閉鎖しての工事も行います。工事の詳細は掲示等にてご案内しております。2月初旬まで入退院センターを改修し、引き続き、3月下旬まで入退院玄関の工事を実施します。

乳がん手術の乳房を元通りに

乳房再生医学寄附講座

さらに、大動脈弁狭窄症に関して大腿部からカテーテルを使って人工大動脈弁を挿入する経カテーテル大動脈弁留置術を2009年に日本で初めて実施しました。現在、阪大病院が中心となって治療が行われています。従来の心臓を開いて弁を

乳がんは増え続けていますが、早期発見すれば乳房温存手術で乳房を残せるようになってきました。しかし、温存手術でも乳房に傷がついたり、形が歪んでしまったりすることがあります。阪大病院では女性にとって大切な乳房を元通りに再生する乳房再生治療を行い、全国から患者さんが受診しています。乳房温存術を受ける場合でも「できる限り

きれいに乳房を残したい」という患者さんが圧倒的に多いのですが、これまではがんが治るのなら仕方ないとあきらめていた場合が多くありました。早期の乳がんでは乳房温存手術をしても、部分的に乳房を切除するために切除部分の小さな乳房をほぼ元通りに再生する乳房再生治療を行います。全国から患者さんが受診しています。

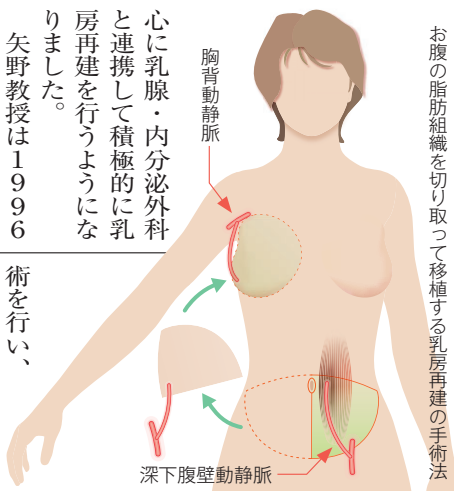
医師の側でも乳がんの治療をするだけでなく、術後も患者さんが心理的に負担なく日常生活が送れるようにできるだけ乳房を元通りに再生する治療が行われるようになってきました。阪大病院でも医学部に乳房再生医学寄附講座が一昨年に誕生し、矢野健二教授を中

お腹の脂肪組織を切り取って移植する乳房再生の手術法

心に乳腺・内分泌外科と連携して積極的に乳房再生を行うようになりました。

矢野教授は1996年ごろから乳房再生に取り組み始め、2000年から阪大病院で手術をするようになりました。現在では年間120〜130件の手術を行います。

この分野では世界的なトップランナーです。乳房の再生は乳房の大きさや形、切除の大きさなど患者さんの状況によって手術法を選択



負担を軽くするため、阪大病院では乳がん手術と同時に乳房再生を行っています。また、他施設で手術をした患者さんで、手術後時間がたっても再建が同じようにはできません。再建の方法で一般的なのは背中の筋肉と脂肪組織を乳房の變形部分に移動させる手術法です。最近ではお腹の脂肪組織を血管が付いたまま切り取り、乳房の變形部分に移植する手術法も普及しつつあります。



新任科長 小川和彦
放射線治療学講座

私は今まで放射線治療全般を行い、研究面においては放射線治療効果を規定する機序の解明と放射線治療効果を上げるための臨床研究を行ってきました。近年の日本において、放射線治療はますます重要な役割を果たすようになってきています。今後とも研究成果を生かすことにより、患者さんにより良い放射線治療を提供できるように努力いたします。そして、日本の放射線治療のさらなる発展に貢献できるよう、医局員一同全力で取り組みますので、どうぞよろしく願いいたします。

(平成23年12月1日就任)

また、乳房を全摘出した場合でも再建は可能で乳首や乳輪も再建したとはわからないほどになります。どうしても自分の組織で再建できない場合には、シリコン製の人工物を挿入しますが、乳房の形はほぼ元通りになります。

全国から患者さんが来院され、手術までかなり待っていたにもかかわらずなりません。矢野教授は「手術で變形してしまった乳房は元通りに再建できるのであきらめないでください」と話しています。

栄養マネジメント部から

栄養は、身体をつくっている源であり、食事は栄養を食材に置き換えて食べやすくしたものです。例えば、人間は60兆個の細胞から構成されていますが、その細胞を作っているのがたんぱく質(アミノ酸)なのです。日ごろ、何気なく食べている肉や魚類、卵や大豆製品がアミノ酸補給の食材となります。また、その細胞の膜を作っているのが必須脂肪酸であり、体内で作ることができず体外から摂取すべき栄養素で、魚の油脂(DHA・EPA)がそれに値します。身体は食事(栄養)の適正な量を必要とし、過剰



および過少は病気を招く一つの原因となります。今回は、病気を改善させる食生活をサポートする栄養指導について紹介します。栄養管理室では、入院と外来の

栄養指導は

栄養 チェックと

笑顔 チェック

栄養指導を6人の管理栄養士で行っています。病気や検査結果の説明、食事や食生活と検査数値の関連や、献立の立て方、いつ、何を、どれだけ食べればよいのか、そして何を避ければよいのかなど、栄養チェックをしながら個人の栄養状態・環境に応じた適切な栄養管理をサポートしています。日ごろのいろいろな思いを語られ、うつむき加減でドアを開けていた方が、笑みを浮かべてドアを閉めて帰られることも多々あり、私たちは皆さまの笑顔チェックが大切だと日々感じています。